

日本アクチュアリー会資格試験

発行:早稲田大学大学院会計研究科

発行人:秋葉 賢一

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

E-mail accounting@list.waseda.jp

URL <http://www.waseda.jp/fcom/gsa/>

2020/3/12 特別号

合格体験記

アクチュアリー専門コース1年

佐々木 希世貴



会計研入学時の自分

私がアクチュアリーになることを目標にしたのは学部三年次の頃でした。アクチュアリーになるには難関な試験を突破しなければならず、仕事をしながらでは相当な苦勞を要します。なので、二年間という凝縮した期間でI次試験科目と基本的な素養を身に付けたいと考え、アクチュアリー教育に特化した日本で唯一の会計研への入学を決意しました。ただ、一般入学では経済的に負担が大きいことと早めに就職したかったこともあり、飛び級入試を利用しました。入学直前には、カリキュラム上アクチュアリー「数学」に関して演習科目しかないため、過去問や数理統計学の参考書を何度も周回して基本的な事項は押さえた状態で入学しました。

受験勉強と会計研の講義について

個人的に入学当初は可能なら初年度に準会員、ノルマとして在学中に準会員になることを目標として設定していたので一次試験の五科目を勉強し、授業もほとんどアクチュアリー関連科目を履修しました。数学は学部で基本的な事は学んでいたものの決して試験に合格できる水準ではなく、試験勉強はほとんど0からのスタートでした。最初の二ヶ月くらいは五科目並行して勉強していたこともあり先が見えず悩んでいたのを覚えています。しかし、授業内容が丁寧でかつ実務の観点からの解説もあり独学よりも遙かに効率よく勉強が進んだと実感しています。おかげさまで五科目とも試験勉強における土台は作ることができ、あとは演習するのみになりました。ただ、試験本番までの期間も残り少なく難易度の変動が激しいことから、どの科目もぎりぎり合格に届かない可能性が大きく三科目に注力することが適切だと判断し「数学」「生保数理」「損保数理」にしばって勉強しました。その分や難易度の高い問題や未出問題にも対応できるようになり、結果としてその三科目の合格を達成し細かい対策や方向転換が功を奏したと思います。初年度で準会員になる目標はやはり難易度が高く達成出来ませんでした。残りの科目数が二つということで二年目にはより精度を上げた状態で試験に臨めると考えています。

会計研の先生方・同級生の存在

アクチュアリー実務経験のある先生方から、過去問の理解が難しいところや試験で問いたいところを問題作成者側の立場から解説して下さるので、理論上だけでなく問題の背景の理解も得ることが出来ました。事実、個人的に問われそうだと思う対策していた事が本試験で出題されて初見でも抵抗なく解けました。また試験関係以外でも企業からアクチュアリーの方が話をしに来てくださる機会を設けて頂き、非常にモチベーションが向上したと実感しています。やはり同級生の存在も大きく、互いに切磋琢磨し分からないことは気軽に聞ける環境にあったことも今の結果に繋がっており、大変感謝しています。

入学検討中の方へのメッセージ

会計研は周りにアクチュアリーという共通の志を持った方が大勢いること、先生方がその道のプロフェッショナルであることなど、アクチュアリーを目指すのに非常に適した環境であると思います。自習室で同級生や会計専門コースの方達の試験に向けて真剣に取り組んでいる姿を見て、私も頑張ろうと何度も思いました。勿論身を置いておくだけでは何も得られず、志を大きく持ち積極的に環境を利用することによって十分知見を深められます。アクチュアリー関連科目以外にも会計、データサイエンス、英語などアクチュアリーとして習得しておくことに価値がある履修科目もあり、業務にあたる前に強固な土台を形成できると思います。皆様の入学を心よりお待ちしております。



日本アクチュアリー会資格試験

発行:早稲田大学大学院会計研究科

発行人:秋葉 賢一

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

E-mail accounting@list.waseda.jp

URL <http://www.waseda.jp/fcom/gsa/>

2020/3/12 特別号

合格体験記

会計専門コース1年

伊神 匠悟

会計研入学時の自分

私は会計研入学時には公認会計士試験に合格していましたが、会計士として更なる付加価値を生み出すために、将来的には公認会計士とアクチュアリーのダブルホルダーを目指していきたくて考えていました。この時点では会計学についてはひたすら内容を暗記していくような試験勉強しかしてこなかったもので、学問としての会計についてより深い知識を会得したいと思っていました。同時にアクチュアリーを目指す上で必要となる統計学や保険数理、リスク管理、データサイエンスについて学べる場所を探していました。そこで見つけたのが会計研で、会計研のコンセプトの1つである「+1」に共感し、アクチュアリーと公認会計士の両者の専門領域について学べる会計研に進学することを決めました。

受験勉強と会計研の講義について

受験勉強と会計研の講義は密接に連携していました。会計研ではアクチュアリー試験における指定の教科書をベースとした講義が数多く行われており、講義を受けることで試験に必要な知識を一通り網羅することができました。また、独学では理解しづらい所であっても、会計研の先生方にいつでも質問できる環境が整っており、試験勉強という枠組みを超えて統計学や保険数理についての理解を深められたと思います。その他にもアクチュアリー試験と直接的にはあまり関係ない内容ではあるものの、リスクマネジメントやデータサイエンスに関する講義が開講されており、アクチュアリーとしての知見を深めることができました。一方で会計研の講義だけでは問題演習の時間が足りないと感じたため、空いている時間を使って過去問を解いていくことにしていました。結果的に会計研の講義による理解と過去問演習による定着を同時に実施でき、効率的に受験勉強を進めることができたと思います。

会計研の先生方・同級生の存在

会計研の先生方からは会計及び保険数理について発展的な内容や最新のトピックスなど、より深いところまで教えていただきました。特にワークショップ科目は少人数のゼミのような形式の講義ということもあり、先生方との距離感が近く、得るものが大きかったように感じます。

同級生とは情報を共有したり、わからないところを教え合ったりして、お互いに助け合ってきました。人によって得意分野は異なり、数学科出身の人や経済学部出身の人、会計士試験に合格している人などがいて、皆で補い合うことができていたと思います。そして同じ目標に向かう同級生の存在があったからこそ、お互いに切磋琢磨することができ、試験勉強のモチベーションの維持につながったと思います。

入学検討中の方へのメッセージ

会計研では偉大な先生方の講義やアクチュアリーの実務家の方々をお招きしての講演会、同じ目標を持った勉強仲間との出会いなどを通じて自分自身の視野が大きく広がりました。学生の時に第一線で活躍されている実務家の方のお話を沢山聞けるというのは、アクチュアリーとしてのキャリアを考えた場合にとっても有意義なことだと思います。また、日本ではアクチュアリーの知名度はそこまで高くなく、目指す人の数は少ないですが、会計研にはその数少ない人たちが集まっています。試験勉強や就職活動の情報共有も頻繁に行われており、アクチュアリーを目指す人たちと横のつながりを持てるのはかけがえのない財産になると思います。アクチュアリーコースは新設されてまだ間もないですが、このような貴重な経験のできる会計研への皆様の入学を心よりお待ちしております。

